

vol. 2284

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL/(097)556-2838 FAX/(097)556-8998 MAIL/ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 第6回 臨時・非常勤教職員等全国交流集会
- 教職員評価システム(人事評価制度)県教委交渉
- 教員採用試験 三次対策会
- 障害児学校部学習会

第6回臨時・非常勤教職員等全国交流集会

とき 8月27日(土)

第6回臨時・非常勤教職員等全国交流集会が開催され、大分高教組からは深藏剛さん(鶴崎工業分会)と仁木書記次長が参加しました。新型コロナウイルス感染拡大のため、今年度も残念ながらWeb開催でした。

開会行事では、日政連参議院議員の古賀ちかげさんが、福岡県教組臨採部の立ち上げに尽力をしてきたこと、そして運動を続けていくことの重要性についてあいさつをしました。また、情勢報告では、連合総合運動推進局総合局長の内藤靖博さんが、「労働相談から考えるフェアワーク推進に向けた取り組み」と題して、連合の役割や労働相談について話をしました。さらには、岡山県教組と沖縄高教組からとりくみ報告がありました。

Web開催ということで、顔を合わせて十分な話ができなかったことがとても残念でした。

〈参加者還流報告〉

8月27日にWeb開催された「第6回臨時・非常勤教職員等全国交流集会」に参加しました。他県でのとりくみや新規加入者数を聞き、改めて自分の周りでも話をしていこうと感じました。冒頭の挨拶で話された非常勤の方が、生活がいかに苦しいかを切実に語っておられました。ともすれば「自己責任」という言葉で括られがちな自分たち非正規公務員ですが、採用試験の年齢制限や試験の実施自体が不確かな事、非正規公務員の実務経験は考慮されない等、やはり「仕組み」がおかしいという声は上げ続けなければならないと感じました。同時に、「時間がない、お金がない、人がいない、だから仕方ない」という考えに慣れきってしまったのは、色々な事が衰退していく一方だという思いを強くしました。

(深藏剛 鶴崎工業分会)

教職員評価システム(人事評価制度)県教委交渉

とき 9月5日(月) ところ 教育委員室

9月5日に、高教組・県教組で教職員評価システムに関する県教委交渉を行いました。

冒頭、大野委員長が「安部晋三氏の国葬について、学校に半旗掲揚など、弔意の強制をしないこと」「新型コロナウイルス罹患によって教員採用試験を受験できなかった受験生に対して、何らかの措置を講ずること」の2点を申し入れました。

その後、以下の要求項目に沿って、交渉を行いました。

～要求項目～

1. 「人事評価制度」について、5原則(合目的性、公正・公平性、客観性、透明性、納得性)と2要件(苦情処理制度、労使協議制)を担保すること
2. 評価によって教職員全員のモチベーションが下がらないようにすること
3. 管理職に対する評価、また研修を厳正に行うこと。併せて適性を欠く管理職に対する分限降格制度を導入すること。

- 4. 各学校種、職種にかかる個別の課題については、現場教職員の意見を聞き解決に努めること。
- 5. ハラスメント相談体制、苦情体制・苦情処理制度については周知に努めるとともに、充実を図ること。

高教組からは、執行委員7人で交渉に臨みました。「『目標管理シート』に、一般の教職員が『働き方改革』についての項目を入れるように強要されるのはおかしいのではないか。」や、「『働き方改革』の目標を達成するために、タイムレコーダーの過少申告や年休・振休をとっているのに授業を行うといったことが横行している。何のための目標管理シートが分からなくなっている」等、現状の問題点を厳しく指摘しました。

人事評価の給与への反映がはじまって6年になります。私たちは、「そもそも評価制度は協力・協働の学校現場にはなじまない」ことを前提に、今後も改善を要求していきます。

教員採用試験 三次対策会

とき 9月10日(土)
ところ 高教組第1会議室

9月10日(土)に、教員採用試験三次対策会を開催し、組合員を含む9名が参加しました。今年度も青年部組合員が面接官となり、3次試験の受験科目である個人面接の模擬面接を実施しました。

面接官は、自分たちの経験を思い出しながら、志望理由や「教師に向いている点」等について、実際に面接で聞かれそうなことをさまざまな視点から質問をしました。受験者は、緊張をしながらも自分の考えをはっきりと述べていました。面接後は、「文はもう少し短くした方が良い」や「事実だけを述べるのではなく、それから何を得たかを加えるともっと良くなる」等、一人ひとりアドバイスを受けました。

今回も、1人が面接をしている間他の参加者はそれを観察する、というスタイルで実施しました。それにより、良いところを吸収したり、自分だったらどのように答えるかを考えたりすることができました。

参加者のみなさん、大変お疲れ様でした。

今後も、臨時・非常勤教職員の待遇改善にむけてとりくんでいきます。

〈受験生の感想〉

- 自分の改善点を、さまざまな視点から見て頂きとても学びになりました。他の方の改善を聞くことで自分自身も気付くことがあり、より深く学ぶことができました。
- 本番に近い形で練習することができ、とても良い機会になりました。同じように試験を受ける方がいることも実感でき、心強さを感じました。他の方がどのような質問をされているのかを見るのも、良い練習になったと思います。
- すごく自信につながりました。なかなか他の人の面接を見る機会がないのですごく勉強になりました。他の人が聞かれた質問や応答を「自分なら」や「ここがいい」と思うところがあったので、今後の練習の参考にします。

障害児学校部学習会

とき 8月27日(土) ところ 大分県教育会館

8月27日教育会館にて障害児学校部夏季学習会を開催し、26名が参加しました。

全体会では県教組の小川障害児部長からの挨拶をいただき、来年度大分県で開催される九協障害児教育部学習会の開催にむけて気持ちを一つにしました。また全体会の後には、3つの分散会に分かれて、各職場の課題や悩み、疑問などを話し合いました。それぞれの分散会では各学校の実情や個人の困った事などを話せる、そして聞いてくれる暖かな場として、あらためて高教組の仲間の大切さを感じることができました。また分散会の報告会では人事の問題や働き方改革、新型コロナウイルス対応など様々課題が整理されました。直接の課題解決とはなりません、様々な情報を聞くことによりいくつかヒントがもたらされたなどの声を聞くことができ、有意義な学習会になりました。

(障害児学校部部长 由布支援分会 堀田文雄)

